

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立浦和第一女子高等学校 )

目指す学校像	世界で活躍できる知性と教養、逞しさを備え、社会に貢献する高い志を持った魅力あるリーダーを育成する女子高校
--------	--

重点目標	1 学力向上に組織的に取り組み、自己の進路実現を果たす一女生を育成する。 2 部活動、学校行事などに全力で取り組み、自らを高める一女生を育成する。 3 国内外との様々な連携を推進するとともに、一女の教育を積極的に情報発信する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標				年度評価(月日現在)		実施日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	①県内トップレベルの学力をもつ生徒に対し、高い志の育成、進路希望実現に向け、数々の取り組みを行い、成果を上げている。分掌間・学年間・教科間の共通理解をさらに推進し、計画的・組織的・系統的に学力向上を実践していくことが課題である。 ②全職員の共通理解のもと計画的にガイダンスを実施し、生徒が主体的に進路について考える指導体制が整ってきている。生徒一人ひとりに合った充実した進路指導が提供できるよう、学年・教科・分掌間の連携がより求められる。 ③新学習指導要領、高大接続改革の内容を研究するとともに、本校の取組の良い点、改善点を明らかにし、教育課程改訂に向けた将来構想のアウトラインをまとめていく必要がある。	①授業改善への取り組みに対する共通理解の推進 ②全職員による組織的な進路指導 ③新学習指導要領、大学入試改革の内容の調査研究	①学力向上委員会を中心とし、生徒の自主学習を支援する体制を整えるとともに、生徒の知識理解の質を高め、資質・能力を向上させる授業改善に取り組む。 ②学年および進路指導部の連携を密にし、各進路行事を一層充実・発展させる。生徒一人ひとりの目標実現に向けた進路指導にあたる。 ③ビジョン委員会・企画委員会を中心に調査研究を進める中で、課題を共有し将来構想について検討を進める。	①・学力向上委員会を中心に、学力向上に向けた組織的取り組みを実施 ・授業改善に向け研究授業、情報交換会、授業評価の実施回数 ・実力養成講座の開講数 ②・情報提供により大学等の魅力の発信 ・進路ガイダンス、個人面談の実施回数 ・三者面談の活性化 ・保護者向け講演会の実施 ③・先進校視察、外部研修会等への参加状況 ・校内研修会の実施	【授業改善に共通理解を持ち、組織的に取り組んだ】 ・研究授業6回、未来を拓く学びプロジェクト研究協議会実施 ・情報交換会4回、授業評価1回実施 ・実力養成講座を99講座開講 【全職員による組織的な進路指導を実施した】 ・進路ガイダンス1年15回、2年11回、3年12回実施。個人面談1年4回、2年4回、3年6回実施。 ・保護者講演会2回実施 【新学習指導要領、大学入試改革の内容について共通理解を図る取組ができた】 ・先進視察、外部研修会にのべ40名以上が参加。 ・校内研修会2回実施	A A A	大学入学共通テスト平成32年度実施、平成34年度からの新学習指導要領に向け、本校の目指す教育について更なる共通理解図り、教育課程を編成していく必要がある。今年度行った研修会、SS探究、SG探究等の取組成果をもとに具体案の検討を進めていく。 ICTの活用が進められている。今後も、生徒がより広い視野で情報を得、実感を持って学んで行く体制づくりを進めてほしい。 保護者の興味は進路に偏りがちである。授業、教育の質への興味関心を高め、連携するPTA活動を考えたい。	丁寧な思考力を伸ばす授業が展開され質の高い教育が実現されている。SSH、SGHの指定を受け、国から高い評価を受けていることは納得できる。 高大接続改革が進み、現在の1年生から新テストが始まるが、新テストに十分対応できる授業内容になっている。子どもを通わせたい学校になっている。 ICTの活用が進められている。今後も、生徒がより広い視野で情報を得、実感を持って学んで行く体制づくりを進めてほしい。 保護者の興味は進路に偏りがちである。授業、教育の質への興味関心を高め、連携するPTA活動を考えたい。
2	①15年目となるSSH、3年目となるSGHの実施により、自ら課題を見つけ協働して解決していく探究型学習の成果が出ている。さらなる先進的プログラム開発と、より組織的な運営を推進していく必要がある。 ②生徒が中心となって様々な学校行事を企画運営している。文武両道の実現に向け、生徒の主体的な活動がより効率的かつ効果的な活動となるよう支援することが求められる。 ③悩みを抱える生徒支援のための教育相談をより充実させると同時に、生徒自身にも生きる力の醸成を促していくことが求められる。	①SSHの取組み状況 SGHの取組み状況 ②各学校行事における支援状況 ③教育相談体制の充実	①探究学習部と、SSH推進委員会・SGH推進委員会を基盤として全職員で各々の活動の取組みを支える。 ②生徒会を中心に、各行事において生徒たちが主体的に活動できる環境づくりを行う。 ③生徒指導部、保健環境部、教育相談委員会を中核とし安全・安心な学校づくりのための組織的な取組みを推進する。	①・SSH1年受講生80名、選択生徒の満足度 ・SGHの効果的な計画立案、実施及び生徒全体への還元状況 ②・各行事における生徒の満足度 ・生徒の成長 ③・スクールカウンセラーの有効活用 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応 ・支援を必要とする生徒の情報共有	【全校でSSH、SGHに取組み、探究学習を推進し、成果を上げた】 ・SSH受講生の満足度100%、総合的な学習の時間等を活用し、学校全体の活動へと発展できた。 【支援体制を整え生徒の心の成長を促進した】 ・各行事における生徒の満足度は非常に高かった。 ・生徒の自主性、協働性を高めることができた。 【個に応じた支援体制を作ることができた】 ・スクールカウンセラーによる教育相談日を18回設定し、個別支援の検討、情報共有を効率的に実施することができた。	A A B	SSH、SGH事業の全校体制が成果を上げ、様々な場面において主体的対話的で深い学びが実現してきている。その成果を継続、発展させていくために、部活動のあり方も含め、個に応じた教育のあり方について職員の共通理解を図り、具体的な検討を行っていく。	SSH・SGHを軸として、生徒が学ぶ楽しさを感じられる教育内容となっている。 部活動、生徒会活動も含め、大学受験対策に偏らない、将来を見据えた教育内容になっている。その質の高さと重要性を保護者に積極的に説明し、連携・協働体制の充実を図ってほしい。
3	①県民や地域に本校の取組みを幅広く公開しているがさらに授業公開、HP、説明会等を活用し確実な情報提供を促進していく必要がある。 ②幼稚園・小学校・中学校・塾・大学・地域との連携を図り、充実した取組みを展開している。大学の研究室等との共同研究などさらに一歩進んだ質の高い連携が望まれる。また、外部評価を活用し、さらにグローバルな連携の構築が求められている。	①本校教育活動に対する情報発信の充実 ②外部との連携の推進	①学年、各分掌が連携し諸行事の充実を図ると共に、その活動を広範囲に発信していく。 ②教務・学年を始め、各分掌が中心となってさまざまな連携の充実を図る。国際交流委員会やSGH推進委員会が綿密に連携する。	①・授業公開、学校説明会の実施状況 ・生徒による中学校訪問の実施 ・HPのアクセス数年間10万件以上。 ②・文化祭を始めとする部活動の地域参加 ・幼高連携、高大連携の各プログラムの充実 ・学習塾との連携による志願者数の向上 ・地域住民の方々との交流3回以上 ・小学校との交流参加者50名以上	【多くの媒体を通して本校の魅力を発信できた】 ・授業公開13回、学校説明会6回実施 ・1年生、教員、管理職による中学校訪問実施 ・HPを毎日更新、年間アクセス数は10万件弱であった。 【地域と積極的な連携ができた】 ・塾主催説明会、個別相談会13回参加 ・地域の祭りやイベントに150名以上の生徒がボランティアとして参加 ・小学校との交流参加者108名	B A	HP等のリニューアルを進め、情報発信力を高めるとともに、学校説明会等で新入試対応など、より詳しく説明ができるよう校内体制を整備していく。 継続的な活動ができるよう、生徒、教員の負担軽減の観点からも地域貢献のあり方を検討する。	一女の魅力、教育内容の質の高さを、もっと発信していく必要がある。スマートフォンで手軽に学校の情報を得られるような工夫をしてほしい。HPのリニューアルに期待している。 地域との継続的なつながりができている。裾野を広げ、地域の中で生きることの共有を、地域と学校の双方から進めていく必要がある。